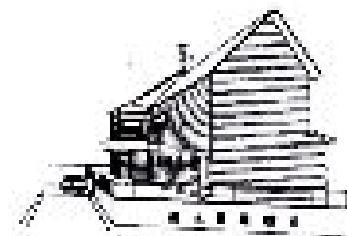


<今朝の聖書から> 教会が、基本的な信仰を確認するために、皆に聞こえるように“信仰の告白”をしますが、そのために用いているのが“使徒信条”といわれているものです。全ての教会は、これを正しいこととして確認していますし、これを否定したり、礼拝において用いない教会はありません。その中に“ポンテオピラトのもとに苦しみを受け”とあります。この“苦しみ”というのは大切なもので、“ピラトの時代、その治世下で”ということを示しています。ただ十字架について語っているだけではありません。十字架に至る全てを示しているのです。1:12に“それからすぐに、御霊がイエスを荒野に追いやった”とある“それから”は、ただの and なのですが、1:11にある“すると天から声があった、「あなたはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である」”ことが、その原因になっています。悪魔は、イエス様に試練を与えました。神に祝福を受ける者に対する悪の“務め”のようなものです。追いやることをしたのは“御霊”だと聖書は語っています。悪から遠ざけ、イエス様を守ることはしなかったのです。それどころか、神様の力として、私たちに代わって試みに勝ってくださった、という出来事が起こりました。その対決の様子は、マタイによる福音書4章に詳しく説明されています。“空腹だったら、神の力を持って石をパンに変えてみよ”、“そんなにに神を信じているのなら、その助けを信じて高い所から飛び降りてみよ”、“私と手を結ぶなら、最高の金持ちにしよう”というようなものでした。私たちはこのことを覚え“主の祈り(マタイ 6:9-13)”でも、“試み(誘惑)にあわせないで”と祈っています。悪の人々に対する試練は、私たちが信仰生活を守ろうとすると、強烈にやって来ます。“教会奉仕に力を入れて何か役に立つというのか”とか、“信仰どころじゃないぞ、もっと大切な現実の問題があるだろう”という意味のことは、あるいは“信仰を持っているとはいえ、人間ですから”と思ってもしまいます。聖書はここで、不義に対する勝利が“悔い改めて福音を信ぜよ(1:15)”という宣教の正しさを保証しているのです。誘いの言葉というのは“アダムとエヴァの時代”から、なかなか巧妙にやって来ます。反論しにくいように、私たちにもやってくるのです。けれども安心できることに、頼るべき神は御子を通して、信じる者に勝利を与えて下さったのです。誘惑に負けてしまった話は山のようにあります。私たちの答えはこうです、“誘惑に勝って、不幸を得たことが、私にはない”、“恵みを得たことはあったにせよ、不利益につながる信仰を私は経験したことがない”というのがそれです。ピラトの時代に悪に勝たれた方は、今も我々の為に勝利して下さっています。

週報

2010年 2月 21日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

振替口座 00890-6-214042